

ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

栃木県土木部建築課

調査位置図

縮尺 1:25000



備考

第 1 図 土質柱状図

調査名 真岡農業改良普及所新築工事に伴う地質調査

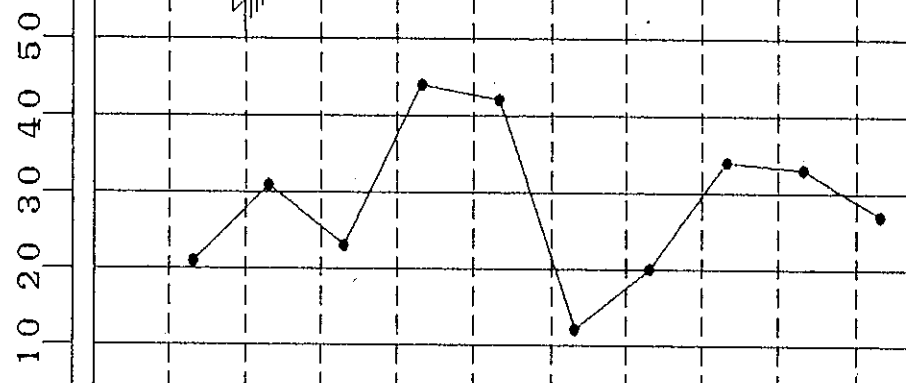
ボーリング方法 ローター式

地点番号 No. 1 孔 標高 100.04 m 調査年月日 61年 7月 2日 ~ 7月 4日

孔内水位 GL-2.00 m 担当者名

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	土質記号	試料採取	土質名	色調	記 事	標準貫入試験		
									深度 (m)	N 値 回	10 cm 毎の打撃回数 c m/c m
1	99.24	0.80	0.80	×		表 土	暗褐暗灰	0.5mまで盛土層(碎石)			
2				○				0.5m~シルト			
3				○				上部砂分が多い。			
4				○				小礫(φ10~20m/m)を主とする。			
5				○				礫径 Max 80m/m			
6	94.54	5.50	4.70	○		砂 礫	暗 灰 褐	φ50m/m前後の礫が多い。			
7				○				下部に従い礫部多くなる。			
8	92.54	7.50	2.00	○		シルト質粘土	茶褐~青灰	5.90mまで茶褐色を呈する。			
9				○				固結している。凝灰質の粘土部多い。下部細粒砂多くなる。			
10	90.04	10.00	2.50	○		砂	暗 黒 灰	粗粒砂が主体			
11				○				小礫を点する。下部に従い細粒砂が多くなる。			

(N 値)



備考

第 2 図 土質柱状図

調査名 真岡農業改良普及所新築工事に伴う地質調査

ボーリング方法 ローター式

地点番号 No. 2孔 標高 100.22 m 調査年月日 61年 7月 5日 ~ 7月 9日

孔内水位 GL-2.60 m 担当者名

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	土質記号	試料採取	土質名	色調	記事	標準貫入試験			
									深度 (m)	N 値 回	10cm 毎の 打撃回数 c m c m c m	(N 値)
1	99.42	0.80	0.80			表土	暗褐	碎石 (ズリ) の盛土層 旧表土層 (シルト) 腐根物混入	1.15	2	1	0
2	98.42	1.80	1.00			砂	暗褐	上部小礫多くルーズである。 玉石 Max 100m/m を希にする。 点砂は粗粒砂 4.80m 付近から φ80m/m 内外が多い。	1.56	41	21	0
3									2.15	12	4	4
4									2.45	30	10	10
5									3.15	29	9	10
6	94.62	5.60	3.80						3.45	30	10	10
7									4.15	30	10	10
8									4.45	30	10	10
9	91.32	8.90	3.30			シルト質粘土	茶褐 ~ 青	上部固結している。 上部粘土分多く下分に 近い砂分多くなる。 砂は細粒砂	5.15	31	10	12
10	90.22	10.00	1.10			シルト質砂	青 灰	9m 付近より砂分多い。	5.45	30	10	10
11									6.15	16	6	5
									6.45	30	10	10
									7.15	7	2	2
									7.51	36	14	8
									8.15	3	1	1
									8.47	32	11	10
									9.15	4	1	1
									9.48	33	9	9
									10.15	4	1	1
									10.45	30	10	10

